



令和2年度 研究特別委員会A部会第1回


公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会主催
2020. 9. 14
東京家政大学
佐藤康富



1


今日の流れ

1. スタッフ紹介
2. コロナ渦での保育を考える
3. 参加者の自己紹介
4. 保育の工夫を語る
5. 自分の課題解決に向けて
6. 次のこと



2

1. 新たな保育を考える時！！



- ・コロナ渦にあって今までのあり方、保育が以前と同じようにはいかない。
- ・新しい日常に対応して変化していかなくてはならない。そこでの工夫が求められている。
- ・いいかえると、新たな保育を考える必要に迫られている。

3

2. 子どもと対話を通して 保育を創造する

- ・子どもの思いを生かす
- ・ツバメの巣の発見






4

対話することは自分達が行う 自分達の評価

- ・評価(assessment)は2つある。
- ・ここで大事なものは形成的評価。




5

3. グループ毎の自己紹介

- ・3つのことを話す。1人1分。

- ①自分の園。
- ②担当（学年、主任等）
- ③自分の最近ハマっていること。




6

4. コロナ渦で困っていること 工夫を話し合おう

- 自分の話をまとめる。(5分)
- それをもとに話し合う。(15分)
- 出てきた内容をカテゴライズ、整理する。(10分)
- グループ毎発表する。

課題の可視化

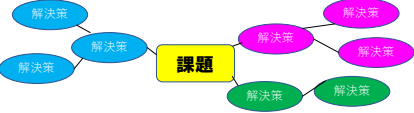

課題の共有



7

5. 保育環境を考える 課題解決の行動化 1歩前へ


- 自分なりの環境課題解決のために、その**解決策をWEB図で書き出す**。(10分)
- その上で自分なりの**解決方針を決める**。(5分)
- それをグループでシェアする。(10分)

8

6. 語り合いながら、自己保育力を高める

- 保育環境の改善という視点で考える。
- ポイント**がある。
 - ①子どもが選択できるか。場、素材・方法等
 - ②子どもとの対話。
 - ③子どもの何が育っているのか。
 - ④子ども自身が主体的に環境を作り変える。



9

子どもに驚く、そこから保育は広がり、深まる

- 子どもの驚きを大切に。子どもの声を聴くことから意味生成が始まる。**WONDER 子どもの驚きに**
- 子どもが驚き、共に考えるなか、真の民主主義が育つ。




ストックホルム大学名誉教授 グニラ・ダールベリ先生

10

実践の中で、子どもに新たな価値を見出す意味を創り出す実践！！

教育学的文書は、標準的な子ども達が特定の年齢においてどのようなかを記述することではない。

ある特定の保育実践の中で何が起きているのかを見て理解しようとし、そしてその子があらかじめ予想された期待や規範の枠組みを超えて、どのように有能であるのかをわかって、その姿から何を学び、何を主観的に描き出し記録するのが、意味や価値を与えられるかが教育としてのドキュメンテーションである。

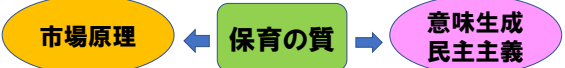


スウェーデンの教育学者
グニラ・ダールベリ(2013)

11

保育が語る新たな物語とは？

- 保育の質・・・質は「品質保証ではない」
- 保育の質を超えて・・・市場原理ではない
- 子どもと保育者が、子どもと同士が、保護者が、地域が世界の意味を一緒に創り上げる、そこに対話と民主主義の新しい地平が拓けてくる。



12

7. この部会で目指すこと

- 子どもの、保育者のウェルビーイング(Wellbeing)
- ウェルビーイングとは一言でいうと、より善く生きること。
- 私の幸せから、私たちの幸せへ。
- ここでのウェルビーイング(Wellbeing)は3つ。
- 身体的、精神的、社会的なものをさす。



13

8. 次回に向けて

- 今日の保育環境の改善を実施したこと、プロセスをドキュメンテーションで発表しあう。
- 次回は11月16日(月)16:30 リモート



14

「保育とデジタル」 Zoomによるオンラインシンポジウム

日時 9月26日(土)16時～19時

通訳あり、参加費無料

内容 講演1「デジタルを活用した遊びとツール」オーストラリアの実践研究から
講演2「デジタルツールを使って世界を探索する子ども達の話」イギリスの実践研究から

パネルディスカッション 秋田喜代美先生 東重満先生

お申し込みは、以下のリンクから、先着500名。

◆シンポジウムの申込受付ページ

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/19318/>



15